特別支援教育部会

令和３年度
１月例会報告

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A1ブロック	1月例会	３７人	オンライン

<meet>

1　本日の流れの確認

2　県教研の報告

特別支援学級における「主体的・対話的で深い学び」をめざした国語の授業
～一人一台端末を活かした取り組みを通して～

①設定理由

②研究仮説

③研究内容

（1）児童の実態把握と手立ての工夫

・自分の課題を理解し、課題解決に向けて思考を働かせ判断しながら学習している。(めざす姿)

・見通しを持たせ、少しずつ自分の役割を達成できるようにする。自分で判断して取り組めるようにする。(授業づくりのポイント抜粋)

（2）授業実践

・計画を立てる。→学習の流れを整理する。→インタビューをする。→ギガタブで発表原稿を作る。
→リハーサルを行い、本番の撮影をする。→動画をチェックして振り返りをする。
→VTR を交流学級の児童に見せる。(ギガタブでアンケートを作成し、すぐにフィードバックする。)

④研究のまとめ（成果と課題）

（1）主体的な学びに関して

・見通しを持たせ、過去の学習の成果を見せることが児童の主体的な学習参加、創意工夫をする態度につながった。しかし、児童の思考力に差が見られた。

（2）対話的な学びに関して

・振り返りで友達を誉め認め合う姿が見られた。ギガタブ上で児童同士が関わることもあった。アンケート機能を活用することで素早く振り返りができることにつながった。

（3）深い学びに関して

・ギガタブは児童の実態に合わせやすかった。映像などの視聴覚機器は振り返りに有効だった。自己評価の場面を多く取り入れてもよかった。

3　他分会の提案内容について

4　その他連絡等

①推進委員挨拶

②アンケートのお願い

次回例会　　日付	会場校	内容

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-2	１月例会	２５人	新宿小

【教材・教具の紹介】

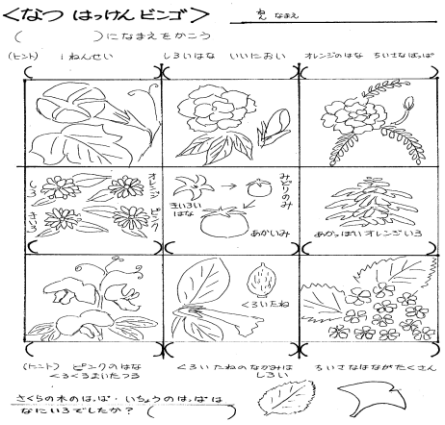
各学校から教材・教具を紹介していただきました。

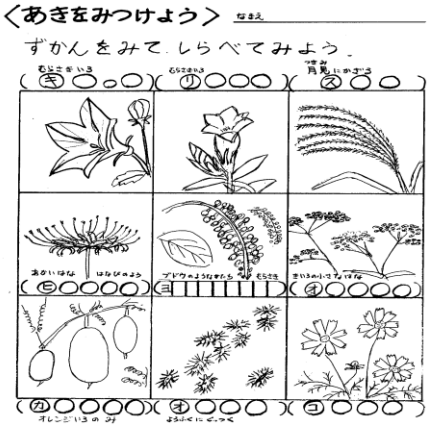
算数の教材・教具

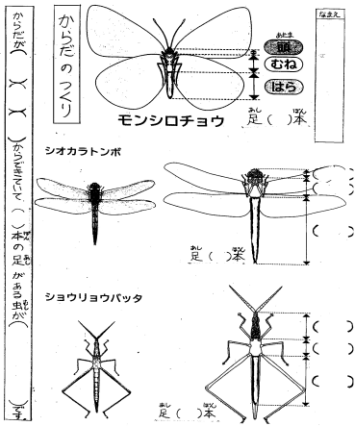
①「お金の学習」

②数・計算「ぶどう狩りをしよう」

生活単元（理科）の教材・教具

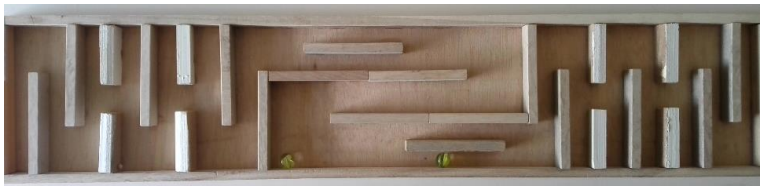






自立活動の教材・教具

・注視や眼球運動　・目と手の協応　・集中する力、落ち着き・手や腕の感覚（固有感覚）の動き



【連絡】

ギガタブでアンケートの回答をお願いします。

次回例会　　日付	会場校	内容

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	1月例会	５８人	各学校（リモート）

◎進路について（事前アンケートをもとに）　Google Meet によるリモート開催

１．流れの確認

２．事前アンケートをもとに、助言者よりご指導、質疑応答

（１）療育手帳やその他手帳に関する内容

① 手帳を持っていない子どもの進路指導

② 色々なサポート校についての情報

③ 精神障害者福祉手帳について

④ 行政の動きについて

⑤ 療育手帳の家庭への働きかけについて

⑥ 障害理解と受容、保護者への働きかけについて

⑦ サポート校の卒業後の進路について

（２）進路指導、受験、その後の進路について

① 高校受験をする生徒の強化の学習の進め方

② 入試時の合理的配慮の申請の実例

③ 学年職員との連携のとり方、担任として準備しておくこと

④ 千葉県内の高校で特別支援学校に近い学級を設置している学校があるか

⑤ 特別支援学級在籍生徒の高校進学後の進路について

（３）特別支援学校への要望

① 引継ぎについて

② 入学に際しての日程について

③ 特別支援学校の情報発信について

（４）調査書について

① 調査書の書き方

② 個人成績一覧表と学習分布表の記載について

３．諸連絡

次回例会　　日付	会場校	内容

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	1月	３３人	オンライン開催

1　諸連絡

○個人情報の取り扱いについて

ことばの指導内容については通級ノートに書く。対話の中で出てきた児童の相談などの内容は、個人情報など取り扱いに注意する。担任などに伝える必要がある場合は、ノートではなく電話などで連絡をとる。表に出す情報と出さない情報を整理していく必要がある。

○県特連について

2月の講演会あり。文化会はなくなり、8月に予定している。

6月全体会　オンラインで開催。講演会後、千葉市で来年度の講師を決める。

8月夏季研は対面かオンラインか未定。

R5年度の事務局は千葉市のため、4月になったら事務局長・会計などみんなで分担する。

○スタタリング・ナウちば

吃音講習会・相談会を予定している。スタッフとしてサポートしていただける人を募集している。

○次回の言難フォーラムの日程について、ストリームに連絡を。

2　情報交換

○ことばの教室の発表会での取り組みについて

・みんなで集まるのではなく、クラスルームのストリームに動画をスライドに貼り付け、それぞれ視聴する形で行った。動画のアクセス権があるため気軽に動画を配信できなかった。ICT支援員に相談しながら配信作業を行った。個人情報の扱いについては、保護者の発表会の内容についてのお手紙で確認。視聴は2日に限定。

・廊下に児童の作品を展覧会形式で掲示する。感想カードを入れる感想ポスト設置。

・子ども達の反応を見ながら行える対面の良さがあると考え、感染対策に気を付けながら、通級している日時に少人数で発表を行っている。2人以上7人以下。

→コロナが落ち着いたら、できるなら動画や掲示より、会うことを大切にしていきたい。対面で行うことで、クラスでの発表や本児の自信につながる。

3　推進委員から挨拶

○来年度の役員について

○推進委員から挨拶

・令和3年度振り返りアンケートのお願い

詳しい内容については、言難のクラスルームのストリームを確認。

次回例会　　日付	会場校	内容

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D ブロック	1 月例会	18 人	オンライン

今年度のまとめと来年度に向けて

〈全体会クラスルーム〉

１　はじめの言葉

２　研修方法について説明

11 月例会と同じ４グループで協議を行う。

グループ協議はジャムボードを使用して行う。

３　グループ協議　ジャムボード使用

〇今年度のまとめと来年度にやりたいこと

- ６月例会の教育センターの施設訪問で、不登校児童生徒の対応がわかった。
  来年度も施設見学を入れたい。不登校児童生徒が増加しているため、ライトポートやフリースクールの見学も興味がある。
- ９月例会のアセスメントの紹介は、利用の仕方がわかりよかったが、できれば実際に集まってやってみたかった。
- 10 月例会の小中の情報交換は、小学校通級利用児童の成長の様子や、中学校での支援、高校進学のことなどを共通理解することができた。事前にアンケートを取り、グループ協議の議題を共有しておけば、より深められたと思う。
- 11 月例会の事例研究は、わかりやすかった。
  来年度も教職員以外の方に話を聞きたい。
- 今年度は途中からオンラインで研修を行った。また、通級指導をオンラインで行った。
  来年度は、オンラインの使い方や活用の仕方をより知りたい。
- 通級担当者は新しい人が増えたので、来年度は経験の豊富な先生からの話を聞きたい。

４　推進委員より

〇推進委員より挨拶

〇来年度の推進委員担当校について

５　諸連絡

６　終わりの言葉

次回例会　　日付	会場校	内容

特別支援教育部会

令和３年度
１１月例会報告

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A1・A2	１１月	33 人（A1）・31 人（A2）	千葉市立新宿小学校

【自立活動について】

1　「自立活動」とは

①安心して、学べる環境づくり

・ランドセルなどの自分の持ち物の置き場所を一定にする。

・ホワイトボードなどで一日のスケジュールを確認する。

②コミュニケーション能力の向上

・アセスメントを大切にする。

・やりとりの基礎（視覚的な支援、カードを机に貼るなど）

③社会生活に必要なスキルを身につける

・社会性を育てる～一緒に○○する～

・簡単なゲームでルールを守る。（自立活動の視点で取り組む）

2　自立活動の実践発表～状況に応じた、コミュニケーション能力の育成をめざした学習方法の工夫～

・学習活動の工夫

・状況を理解するための視覚的支援の工夫

・活動に安心して取り組むための工夫

・状況に応じた人との関わり方を考えるための観点の明確化

・本題材で学んだことを生活に広げるための工夫

3　演習（自立活動シート）・教材の紹介

・クラスの中の一人を想定して、自立活動シートを作成した。

・自立課題の教材を自由に見たり、実際に試したりした。

4　グループに分かれて協議

・各学校の様々な実態の児童に関して自立活動シートを作成した後、グループ協議をした。

5　まとめ

・最後に講師の先生から自立活動の取り組みについて、ご指導をいただいた。

次回例会　　日付	会場校	内容
１月１１日（火）	都賀小学校（A1） 新宿小学校（A2）	県教研報告（A1） 教材・教具の紹介（A2）

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
B	１１月	２９人	千葉市立末広中学校

【研究授業】

（1）日　時　：　１１月１６日（火）
（2）会　場　：　千葉市立末広中学校
（3）内　容　：　授業研究　自立活動
研究授業（TV で視聴）
休憩、協議会準備
協議会（グループ協議・情報交換）
・授業について（よかった点、改善点など）
・コミュニケーションの場面設定について
・生徒への発問のし方、課題の与え方
助言指導
諸連絡

＜協議会での内容＞

○授業について

・視覚的支援がよかった。
⇒黒板の使い方、教材提示、タイマーで授業の見通しをもちやすくし、わかりやすい。
・先生の言葉遣いが丁寧。生徒の発言を尊重し、広げている。⇒復唱してわかりやすい。
・ワークシートの内容について⇒時間内に終わる方がよいのでは。
・生徒同士のコミュニケーション活動がもう少しあってもよかったのでは。

○各学校での情報交換

・朝の会、帰りの会などを通して、日頃の生活全体の中で折に触れて指導する。
・昨日のニュース発表

＜助言者の先生より＞

１．本日の授業について
（1）ねらい、達成度・・・「ねらい」を外さないこと。本人、環境、状況など刻々と変化している。
（2）展開・・・発表のポイント、仕掛け、アイデアなど。必要以上に提示しない。
（2）指導方法の工夫
①伝える方法を知る。
②伝える楽しさを体験する。
③自己肯定感を高める。
２．自立活動について
３．まとめ
※できた時に認める。個別化する指導、オーダーメイドで実態に応じた指導⇒個別の指導計画を活用

次回例会　　日付	会場校	内容
１月１１日（火）	千葉市立幕張西中学校	今年度のまとめ、教材紹介

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
C	１１月	３３人	千葉市立院内小学校

1　全難言　全国大会の発表内容「吃音がある子供のレジリエンスを育てる対話」について提案

〇レジリエンスについて

〇対話について（〇対話の前に〇対話の進め方）

〇対話のツール

（〇吃音はじめてブック〇吃音エピソード〇吃音ワークブック〇学習どもりカルタ〇吃音カルタ

〇吃音キャラクター〇チェックリスト〇吃音の氷山〇言語関係図〇強みのワーク〇表現する作品）

〇対話から見えたレジリエンス（3 人の吃音のある児童の事例について紹介）

〇おわりに（〇対等性・応答性〇不確実性の耐性〇レジリエンス）

＜感想・質問＞

・児童と丁寧に向き合い、積み重ねた学習であることが伝わってくる。

・成功例だけでなく、悩んできた過程も発表されていて良かった。

・児童の担任との連携

→ノートには児童が書いて良い内容を書く。担任には、「〇〇さんが～の気になることを言っていたのですが、教えてください。今後の授業に生かしていきたい。」などと電話やノートで連絡している。

・対話をするときに、語彙が少ない児童にどのような対応をしているのか。

→「～のことなのかな」「～の表現なのかな」と言葉を添えている。

・どんなことを大切に子どもと対話をしているのか。

→子どもの考えていることを知りたい、その世界に入ってみたいという気持ちで子どもと対話をしている。

2　グループ別ケース相談会

〇ことばの遅れ

就学時健診での流れ・ことばの教室から LD 等通級指導教室へのつなぎ方

〇発音

副鼻腔炎でナ行がダ行に置換している児童の練習方法

指導中の感染対策

状況報告書の内容について

〇吃音

〇自己紹介　〇ペア学習　〇小学校卒業に向けて気持ちの育て方　〇周りの人に吃音を伝えること

〇チェックリスト　〇会話から入り、気持ちを共有すること　〇発語が少ない児童について

3　諸連絡

〇ブロック研修の開催日・内容について　クラスルームのミートで生配信の予定

〇ことばを育てる会について

〇１月例会　開催方法は、ギガタブのオンラインで開催予定

12 月中にアンケートを実施し、内容を決定する予定

次回例会　　日付	会場校	内容
１月１１日（火）	オンラインで開催予定	12 月のアンケート実施後、内容を決定する。

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D	１１月	３２名	オンライン

事例検討会

〈全体会クラスルーム〉

１　はじめの言葉

２　研修方法について説明　グループ討議は各クラスルームでジャムボードを使用して行う。

３　事例検討

①講義

「問題行動への対応」

問題行動は、スキルが不足している子どもに未解決な問題が発生すると出現する。問題解決に向けて３ステップで取り組むとよい。

- 共感　子どもの懸念を中立な表現で扱う。
- 問題定義　教師の懸念を伝え、子どもと教師の懸念を突き合わせて問題を定義する。
- 提案　問題解決への良い案を子どもから提案させ話し合う。うまくいかないときは継続して協力して解決していこうという意図を伝える。

②ロールプレイ悪い例

給食中に立ち歩く児童への大人の介入方法。

③グループ討議〈グループ別クラスルーム〉

ロールプレイから児童の気持ちをくみ取り、言葉がけなどの介入方法を４グループで話し合った。

④グループ発表

⑤ロールプレイ良い例

教師の介入として、共感、問題定義、提案を行う。

⑥講師より

応用行動分析は、先行事象Ａ、行動Ｂ、結果Ｃで表す。ＡとＣを大人が変えることで、子どもの行動がどう変化するかを記録していくことが大切である。「Try　and　error」で大人の介入方法を工夫して実施し、子どもの様子を観察分析する。

⑦事例児童について

４　質疑応答

５　お礼の言葉

- 次回について　１月例会　一年の振り返りと来年度の見通しについて　オンラインで実施予定。

６　終わりの言葉

次回例会　　日付	会場校	内容
１月１１日（火）	オンライン	一年間の振り返りと次年度の見通し

特別支援教育部会

令和３年度
１０月例会報告

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1・A-2（合同）	１０月	A-1（51 人）・A-2（57 人）	リモート開催

【期限付き入級について】

1　期限付き入級の概要

・期限付き入級とは、知的に遅れはないが発達障害等があり、通常級での学習が難しい児童生徒が、１年か２年後に再審議をする期限を付けて特別支援学級に入級することである。

・ＩＱは７５以上

・平成３０年度から始まり、令和元年度は２４人いた。

・通常級に転籍しなくてはならないわけではない。通常級に絶対に転籍できるわけでもない。

⇩

・高校進学の可能性を残しながら支援級で適応を目指す。
・社会参加を見通して通常級に転籍することも大切。

2　就学支援委員会で期限付き入級が決定した後の流れ

○養セ相談担当より結果の電話連絡

・保護者へ：期限付きであることを説明。

・学校へ：期限付きであることを説明。措置通知が届くことを伝える。措置通知が届いたら、保護者に連絡をしてほしいと伝える。

★支援級担任は、どのような１・２年を過ごすのかを考える。個別の教育支援計画に記入。面談を実施し、保護者への説明が必要。校内の共通理解が重要。

3　「平等」や「特別扱い」の考え方

・個に応じた指導という意味では平等である。

・実態が多様である以上、それぞれの子どもにかける時間は同じではない。

・それぞれのニーズに応えるために、何が工夫できるのかを考えることが必要である。（内容・環境・体制）

【指導と評価について】

1　教育課程

・知的障害特別支援学級の場合、自閉症・情緒障害特別支援学級とは教育課程編成が異なる場合があること。また、同じ教科名でも知的障害特別支援学校の教科である場合があるので、確認が必要。

・一人一人の障害の程度・状況に応じた教育課程の編成ができているか。

・教育課程を基にした教科書の選定が行われているか。

・中学校卒業後を見据えた教育課程の編成及び適切な学びの場の決定がなされているか。

2　評価について

・「学習評価」に係る基本的な用語の確認

・「学習評価」と「指導の評価」　⇨　一人一人の目標を書く

・３つの観点から学習状況を評価する

２人の講師の先生にご指導いただきました。ありがとうございました。

次回例会　　日付	会場校	内容
１１月１６日（火）	新宿小　体育館	自立活動について

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
B	１０月	３８人	末広中学校 Meet 会場

内　容【自立活動についての学習会】

①　受付

②　事前アンケートをもとに、普段困っていることや聞きたいことなどの情報交換をし、講師の先生にどういった手立てをしたらよいか、参考となるサイトや資料を教えていただきました。

【話題】それぞれの項目について、説明をしていただきました。

・６区分２７項目について。

⇒千葉県総合教育センターHP「特別支援学級担当者の専門性向上パッケージ」

・健康の保持の中で、排泄後の処理のできない生徒の指導の仕方。

⇒「段階式 発達に遅れがある子どもの日常生活指導〈3〉排泄指導編／鉄道弘済会弘済学園」学研プラス／1998/11/1

・一人一人課題が異なる中でどこに重点を置いて授業をしたらよいか。

⇒①長期計画・短期計画のバランス②その時間のねらい③当日の生徒の様子

・個別の課題と学級全体で取り組む単元のバランス。

⇒①県総セ（パッケージ）※前掲

②養護教育センターHP(学習システム内)「平成 24 年度特別支援学級担任のためのハンドブック／自立活動・交流及び共同学習・進路指導編」

・自立、生単、道徳などの区別について

⇒養護教育センターHP(学習システム内)

「平成 22 年度研究起用／特別支援学級担任の学習指導の在り方」

・作業でどのような活動があるか。

・具体的な指導事例。

③　講師の先生よりご指導

（１）「自立活動」のイメージ

（２）「自立活動」で最初に行うこと。

・生徒をよく知る（生徒の良いところ、良くないところ）⇒　実態把握

・一番の課題をさぐる（一番成長してほしい、直してほしいところ）⇒課題設定

（３）目標、内容

（４）授業では、何を大切にするか。

①「ねらい」とその達成度（自己評価）

②授業展開（事前の計画／重要）　⇒・シンプル・生徒に分かりやすい

③指導方法の工夫　⇒・アイディア・プロとしていろいろ試す。

次回例会　　日付	会場校	内容
１１月１６日（火）	千葉市立末広中学校	授業「自立活動」

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
C	１０月	３５人	山王小学校　体育館

１　吃音がある子どもたちとの対話について

（１）　吃音がある子との出会い

・ことばの教室の学習・吃音がある子どもたちとの学習について

（２）　吃音とは

・吃音についてどう思うか・私が考える、きこえ・ことばの教室・自分らしく生きるカテゴリー・当事者研究とは・レジリエンスとは

（３）　対話（ナラティブアプローチ)

・ナラティブアプローチ・子どもの実態を把握する

（４）　子どもたちの語り

・学習は対話からはじまり対話で終わる・対等性・応答性・不確実性への耐性・問いかけ・川のように話すとは・絵本の紹介・吃音カルタ・吃音グループ学習・友達の作品から学ぶ・どもることを伝えてみよう・気持ちが変わってからの「吃音カルタ」・学習どもりカルタ・言語関係図・こどもたちの言語関係図・今後の言語関係図はどうなるか・吃音氷山説・吃音氷山ワーク・今後の「氷山」について・問題を整理する・吃音の学習・健康生成論・首尾一貫感覚・ポジティブ心理学・子どもの強みとは・卒業後のたくさんの出会いの場・ちば吃音親子キャンプ・志麻さんのレシピ本より

２　小グループ（5.6 人）に分かれ、オリジナル吃音教材の紹介

〇それぞれの担当が教材を持ち寄り、紹介し合う。

教材例

・歌「ぼくのお日さま」・「どもることについて語り合おう」などの手作り絵本・「子どものレジリエンス」「10 代のためのレジリエンス」「子どものためのポジティブ心理学」「ぼくのニセモノをつくるには」などの本の紹介・きこえについて質問してみよう・２４の強みリスト・どもりの気持ち・吃音の波の図を作り、自分の気持ちの変化について振り返る学習・オンライン教材など

３　諸連絡

〇ブロック研修会について

12 月 6 日（月）に授業研の予定。

〇言難フォーラムについて

今月の開催日は、22 日か 29 日を予定している。

〇11 月の市教研について

グループで事例検討を予定している。グループ分けについての詳しいことは、後日、推進委員からクラスルームにて連絡予定。

次回例会　　日付	会場校	内容
１１月１６日（火）	千葉市立院内小学校 体育館	〇全難言全国大会の発表内容の方向性について 〇グループワークで事例検討

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D	10月	21名	オンライン

中学校区グループに分かれて情報交換

〈全体会クラスルーム〉

１　はじめの言葉

２　研修方法について説明

〈中学校区別クラスルーム〉

３　中学校区に分かれて情報交換

【話し合う議題】

- 児童生徒の様子(小学校→中学校通級に繋がった子、またはその他の子でも)
- 進学について(高校進学、その先まで知っている子がいればその情報も共有できるとよいです。)
- 指導上の悩み、社会での支援　　等

〈全体会クラスルーム〉

４　全体で情報交換の共有

各区代表者より発表

- 中学校卒業後の進路について、サポート校などが増えて発達障害を持つ生徒の進学先選びは、選択肢が増えている。しかし、高校卒業後の進路については困難さがある。
- 高校選択について、生徒本人が自分の思いを言葉で伝えることで選択肢が明確になってくる。実際に見学して肌で感じることが大事。
- 通級指導教室では、現在の子供の様子から最善な指導を心掛けているが、社会に出てからの様子を知ることで、今現在の指導を再確認できるとよい。
- LD等通級指導教室在籍の児童生徒は、学力的に低い子が増えている。中学校在籍校で意欲を持って生活できるように、小学校時代にどんな指導をすればいいか。→中学校通級は、学習の基礎も必要だが、自己理解・他者理解、自己肯定感の維持向上が大切。自分の進路に自分で向かう気持ちを育てるようにしている。
- ギガタブを使用することで、不登校の生徒が家から指導を受けたり、巡回指導の生徒が指導回数を増やしたりできるようになった。また、保護者の都合で送迎が困難な生徒もオンライン指導ができるようになった。
- 通級担当から、在籍校で個別の指導計画の作成を依頼しているが、実施が難しいケースがある。

５　諸連絡

- 次回について
- 推進委員の交代について

６　終わりの言葉

次回例会　　日付	会場校	内容
１１月１６日（火）	オンライン(講師と推進委員は小倉小からオンライン)	事例検討会

特別支援教育部会

令和３年度
９月例会報告

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	9月	Meet　46人	リモート開催

〇教材・教具紹介

1　本日の流れの確認

2　〇「なのはな夏祭りをしよう」　生活単元学習　図工　音楽　算数
・児童と一緒に作っていく。教師や友達とのやりとりを楽しむことを目的にした。屋台の売り物の個数を工夫することで、掛け算の考え方や式に慣れることができた。

3　〇日常生活の指導・外国語活動　道徳「ひつじかいのこども」
・朝の会を行う際に積極的に英語を活用する。掲示物も児童が作る。日ごろから繰り返し使っていくことで身近なものになっている。
・資料や話を聞いたり見たりして考えを持つ。そしてその考えを話したり書いたりして相手に伝えることを大切にしている。

4　〇かんたん！「図工」の絵画作品の背景の描き方
・どんな児童でも簡単に楽しく絵の具を使った背景を描くことができた。身近な道具を活用して取り組んだ。

5　〇国語「でんしゃはうたう」　算数「わなげランド」
・みんなで学習することを大切にしている。同じ教材でも実態に応じ課題を変えている。みんなでやりとりを楽しみながら学習を進める。
・みんなで楽しみながら行うためにわなげの教材を作った。慣れてきたらルールを追加することで、学習内容の幅も広がった。

6　〇水の量（水鉄砲を使った学習）
・個別単位で比べることを繰り返し行うことで量的な感覚を育てていく。ペットボトルの容器をくっつける際は水漏れに注意。的を倒すのが、児童にとって楽しい活動である。それぞれの得点を記録したり、次のゲームの準備をしたり、自分からどんどん活動することができるようになった。

7　諸連絡等
〇１０月例会について
・オンライン実施予定
・詳細は例会日時の前の週の金曜日以降にデータ確認する。
学習システム：全体共有→001_小中特支学校→080_教職員共有→800_市教研→819_特別支援教育部会→
Ａ１ブロック→会員の先生方へ→〇月例会　資料

次回例会　　日付	会場校	内容
10/19（火）14:00～	リモート開催	評価について・期限付き児童について

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-2	９月	Meet ５２人	リモート開催

【ギガタブ研修】

１　ＧＩＧＡスクール構想についての概要

ユーザー補助機能

・chrome vox…音声によって打面上に何が書かれているか教えてくれる。
・選択して読み上げ…範囲指定してから虫眼鏡キー＋Ｓキーで、読み上げしてくれる。
・音声入力…キーボードがまだ入力できない児童でも使うことができる。
・ハイコントラストモード…色合いが変わって文字などが見やすくなる。
・全画面拡大鏡・ドッキング拡大鏡…一部を拡大するのに便利。
・画面キーボード…手書き入力も可能。
・その他の設定…「大きいマウスカーソル」「マウスカーソルをハイライト」がおすすめ。

２　クラスルームについて

特別支援での授業タブの使い方

・紙でのアンケートが困難な児童にはタップするだけで答えられる。
・ギガタブだと読み上げなどのユーザー補助機能が使える。
・資料のファイリングなどの管理がしやすい。

google forms の使い方

・課題…説明などを加えて課題をアップする。google drive などのデータを添付することが可能。
・テスト付きの課題…google form のテストデータが自動的に添削される。点数や期限などを作成できる。
・質問…直接アンケートなどを受け付けることができる。

３　Meet を使った支援

・字幕機能…音声が字幕付きになる。耳から聞くことが困難な場合、文字を追うことができる。字幕をコピー&ペーストすることで、発言を文字にすることができる。
・画面共有…全画面、ウィンドウ、タブの３種類の共有の仕方がある。
・カメラのコントロール…web カメラを使うと、カメラの位置が簡単に変えられる。手元を映すときに便利。
・表示の切り替え…共有画面を大きく映すなどのレイアウトの変更ができる。(自動・タイル表示・スポットライト)
・ピン留め…画鋲のマークをタップすると、その人が画面に固定される。
・スクリーンショット…書くことが難しい児童はノートやワークシートに書くだけでなく、記録を残すことができる。

４　コンテンツを活用した支援

・ひらひらのひらがなめがね…インターネットのページにふりがなを付けてくれる。
・scratch・アルゴロジック…簡単にできるプログラミング。

【プログラミング研修（アンプラグドの実践)】

アンプラグド＝機器をつながない。コンピュータなどのＩＣＴ機器を使わないで実践を行う方法。

○生活の中のプログラミング的思考（例）

朝の支度、料理、目的地までの道順など、具体的な場面を例にプログラミング的思考について研修した。

次回例会　　日付	会場校	内容
10 月 19 日（火）	リモート開催	評価について・期限付き児童について

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
B	9月	Meet １０人	リモート開催

【生徒指導】

式次第　（１）本時の日程について

①講師よりご教授

「校内・教室の掲示や生徒への声かけの工夫」15:35～16:00

②質疑応答　16:05～16:25

③講師よりご助言　16:25～16:30

（２）その他　意見　質疑等

本時の内容

（１）校内紹介　ギガタブを持ち歩いて校内の掲示物を紹介する。

・生徒待機用に、足跡シートを１ｍおきに廊下に配置。

・感染症対策ポスター作成

（２）教室掲示について

・教室後ろには１年間の学校行事予定

・教室横には月行事予定　生徒作成　　及び学級便り・学年便り

・あいさつの仕方

・子供の活動について　△やってあげる → 一緒にやる◎

（３）生徒指導について

【事例１】　２年生男子　知的障害

特徴　・機嫌が悪いときは教師の指示を無視しマナーに反し続ける。

・プライドが高く、教師の指導法に関わらず聞く耳を持たない。

手だて・どういった場面でなるのかを記録しておく。原因を探る。

・力で押さえつけない方法を考える。子供が納得できることが一番。自己決定。

・生徒がわからないのは教師の支援に問題がある。子供とともに考える。

（４）ポスター掲示　作成上の工夫

・教室内の学習態度・あいさつ・授業の準備・・・等のポスター作成

・視覚に訴える。絵を描くと生徒の意識が絵にいくので、あえて文字限定で表記。

（５）男女の距離間について

・性教育は扱いが難しい。全体で行うべきか、個別で行うべきか意見が分かれた。

・授業を行った教員より前例紹介

※何をどこまで行うか保護者と相談・事前アンケート　主任会で提案

１回目：ビデオ視聴

２・３回目：男女別に分かれて指導

４回目：全体指導

５回目：ロールプレイ

６回目：命について

（６）SST シートの活用について

次回例会　　日付	会場校	内容
10月19日（火）	千葉市文化センター	自立活動の学習会

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
B	9月	Meet ２０人	リモート開催

【進路】

式次第　（１）本時の日程について

・受付（各自アクセス）　15:20～15:30
・司会より　15:30～15:35
・資料の説明　15:35～16:05

（２）質疑応答　16:05～16:25

（３）講師より　16:25～16:30

内容　中学校特別支援学級における卒業後の進路の考え方について

１．進路のイメージ・種類

①高等学校
②専門学校
③特別支援学校（高等部）
④高等特別支援学校・・・職業科/職業コース
⑤通信制（サポート校など）

２．中学校教師が不安に思うこと

Q1　手帳の取れない生徒や外国籍の生徒への指導はどうしたらよいか。
→自立活動的な内容を優先的に指導・支援する必要がある。
（コミュニケーション能力、SST）

Q2　「期限付きの入級」生徒の扱いは、どうしたらよいか。
→少なくとも受験に必要な５教科に授業には通級させたい。
無理ならば、専科の先生に支援学級に来てもらい、学習指導を行う。
夏休みの学習相談を行う。

Q3　一般高校を受験する生徒の学習指導や評価はどうするか。
→高卒の資格を取るのが目的なら・・・定時制のメリットも検討。
→受検にあわせた学習内容を独自にカリキュラム化する。
→全日制にこだわるなら・・・特別支援学級の出身者や発達障害のある生徒を積極的に受け入れてくれている学校を受検する。

Q4　サポート校とは？　どのようなところがあるか。

３．各学校の様子について（普通高等学校、特別支援学校、専門学校、通信制・単位制）

４．特別支援学校高等部普通科（職業コース/専門学科）の内容について

次回例会　　日付	会場	内容
10月19日（火）	千葉市文化センター	自立活動　学習会

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
B	9月	Meet ４人	リモート開催

【道徳】

内容　　道徳の授業についての情報交換

（１）各学校で、道徳の授業を時間割に組み込んでいるか。
（２）道徳の授業で使用した教材、授業内容などの具体例について
（３）通知表をどのように作成しているか。（評価について）

＜情報交換内容＞

（１）について

・参加５校すべて時間割に組み込んでいる。
（１校は時間割に入っているが、自立と隔週で実施。他の１校は生単と隔週で実施している。）

（２）について

・You Tube の動画をテーマに沿って探して使用。
・通常学級が使っている教科書の文を、簡単にして使用。
・読売新聞の「ニュース de 道徳」（第２，第５水曜日に掲載）を使用。
・その他、オリジナル教材を使用。

（３）について

・通知表は５校中４校が、T-Compass を使用。１校が公務システム内のエクセル。
・通常学級の職員が T1 をする授業の評価は、その先生に教科所見を書いてもらう学校もあれば、T2 に入っている支援学級の職員が教科所見を書く学校もあった。
・道徳の評価は、生徒の実態に合わせて、
深い考察ができた生徒は→「～を考えて意見を発表することができた。」
なかなか内容理解もままならない生徒は→「～を考えようとしていた。」などの評価をしている。

次回例会　　日付	会場	内容
10 月 19 日（火）	千葉市文化センター	自立活動　学習会

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
B	9月	Meet 7人	リモート開催

【自立活動】

内容　　日頃の自立活動の実践について情報交換、困っていること、聞いてみたいこと。

＜主な実践内容＞

○SST を行う。
○帯どりで「学習指導」という時間を設定している。
（連絡帳、日記等の記入。学習の復習などに活用、整理整頓→日常生活の指導的な内容）
○クラスで起こった諸問題をすぐに取り上げ、投げかける。
○ボッチャ→ただゲームをするだけでなく、その時の態度や言葉などについても振り返る。
○体力不足、手先の器用さの実態把握→朝マラソン、ストレッチなどを行う。
○月の１時間目はアイロンかけからスタートする。
→教科の苦手意識のある子もホッとでき、週のスタートという意識付け。

＜先生方からの質問等＞

Q1　自己理解はどのようにさせたらよいか
→専門書を紹介する。
→教師がその場面を演じたり、生徒にロールプレイングさせたりしている。
すると、自分のことと気付くことも多い。
Q2　そもそも「自立の項目分け」はどのようにしたらよいか。
→役に立つホームページやワークシートの紹介。

＜講師よりご指導＞

○まずは生徒をよく知る。→実態把握　そして、その子の一番の課題をさぐる。
課題設定が大切である。
↓
生徒に分かりやすく、取り組みやすい授業をしていく。（まずいろいろためすことが大事）
↓
必ず振り返り、改良を加えていく。（プロとしての姿勢）

次回例会　　日付	会場	内容
10月19日（火）	千葉市文化センター	自立活動　学習会

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
C	9月	Meet ３６人	リモート開催

1　養護教諭連絡会について

〇昨年度は、感染予防のため養護教諭連絡会を開催せず紙面のみだったが、今年度は、オンラインで開催予定をしている。就学時健診で養護教諭以外の先生が検査をするケースが増えているため、今回は検査を担当する予定の先生にも参加してもらう。内容や資料は、事前にそれぞれのことばの教室に発送したものを参照してほしい。

〇養護教諭連絡会を行う流れは、依頼文を文書でお知らせし、参加申込書を提出した先生を gmail でクラスルームに招待する。事前に動画を視聴してもらい、当日は 30 分程度、就学時健診・ことばの教室についての質疑応答の時間とする。動画の内容については、クラスルームにアップしたものを参照してほしい。

スライドを基に養護教諭連絡会の内容について説明

〇聴覚障害について、補聴器と人口内耳について、聴力の管理について、きこえの教室について、就学時健診のきこえの検査について（聴力測定の手順・聴力検査の方法）の説明。

〇養護教諭連絡会を開催する流れは、文書でお知らせ→出欠確認→事前の質問受付→感想用紙同封→招待メールがある旨をお知らせする。

2　情報交換　オンライン教材・指導について

・きこえの検査について大変参考になったので、他校の説明の録画を自校の職員に見せることは可能か。
・学校間での養護教諭連絡会の内容のずれがないように、どのように調整するとよいか。
・きこえは市内に３校あるので、学区を３つに分けている。内容については、ケースバイケースで、オリジナルもある。
・保健体育課の研修会で、養護教諭の先生にことばの検査・教室について話す会があるが、近年、感染予防のため行っていない。養護教諭連絡会の内容などを大元の内容を皆さんで共有できるとよい。
・クラスルームに投稿されたオンライン教材は、必ずコピーをしてから使用する。保存先は、マイドライブが望ましい。

3　諸連絡

〇ブロック研修会について

感染予防のため、授業参観を実施できない可能性が高い。内容については検討中である。

〇千葉市特別支援教育推進委員会について

講演会の動画を配信予定。詳しくは、クラスルームのストリームを参照する。

〇10 月の市教研について

吃音の教材を見せ合う機会を設けたいので、各自オリジナル教材の準備をする。会場は、松ケ丘小から山王小学校に変更。

次回例会　　日付	会場校	内容
10 月 19 日（火）	千葉市立山王小学校	〇吃音の学習について

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D	9月	Meet １８名	リモート開催

児童・生徒の実態を知るための検査紹介

１　はじめの言葉

２　読みの実態を知るための検査紹介

「特異的発達障害診断・治療のための実践ガイドライン」

特異的読字障害の診断法についてのキーワード

①文字の音声化の障害、すなわち正しく読めない、流暢に読めない

②全般的知能が正常

③病態の背景は、言語の音韻化の障害

④二次的には、社会適応、たとえば、学校生活における様々な問題に発展しうることに注意がいる。

特異的読字障害　神経生物学的原因に起因する。

正確かつ　流暢な単語認識の困難　綴りや文字記号の音声化が拙劣である。

↓

二次障害　読解能力の低下　読む機会の減少

３　見る力や形のとらえ方を知るための検査

「見る力を育てるビジョン・アセスメント WAVES」

特徴

- 日本で標準化された、視機能・視知覚検査
- 個別実施（完全版）実施時間は、60 分程度である。
- 集団実施（短縮版）が実施可能であり、40 分内で終了できる。
- 小 1～小 6 の標準値が算出してあるが、上の年齢はテスト年齢として参考値として利用できる。
- 評価点とパーセンタイル順位が算出される。
- 検査者として、特に資格が必要でないので教員でも実施可能。
- コピーがフリーである。（デジタル版も発売）
- 検査結果の自動作成プロフィール表がダウンロードできる。
- 結果によりつまずきに応じたトレーニングテキストがある。

４　諸連絡

(1) 次回について

１０/１９（火）　ギガタブでオンライン研修

「中学校区グループに分かれて情報交換」を予定しています。

指導上の悩みや児童生徒の成長の様子、高校進学、社会での支援など、いろいろな情報交換の場にしたいと思います。中学校の先生方の参加をお願いします。

５　終わりの言葉

次回例会　　日付	会場校	内容
10/19（火）	オンライン開催	中学校区に分かれて情報交換

特別支援教育部会

令和３年度
８月例会報告

市教研　特別支援教育部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
	8月	約160人	千葉市生涯学習センター Meet

講演会　「ダウン症の娘と共に生きて」

1　はじめのことば
2　挨拶
3　講師紹介
4　講演会
　講師：金澤　泰子様・翔子様

5　質疑応答
6　お礼のことば
7　おわりのことば

金澤　泰子さん（書家、翔子さん　保護者）
・1943年生　書を柳田流家元に師事
・著書に「愛にはじまる」「天使の正体」など
・久が原書道教室主宰　東京芸術大学評議員
　日本福祉大学客員教授

金澤　翔子さん（書家）
・1985年生　5歳から母の師事で書を始める
・NHK大河ドラマ「平清盛」揮毫　国体の開会式や天皇の御製を揮毫　紺綬褒章受章
・日本福祉大学客員准教授　文部科学省スペシャルサポート大使

【内容】

講演の前に、翔子様が「摩訶般若」を揮毫している映像を見せていただいた。一文字一文字を大切に、丁寧に書く姿に、会場にいる全員が惹きつけられていた。その後前半は泰子様よりお話をいただいた。翔子様が生まれてダウン症との診断を受けた時や、通っている小学校から突如転校の話を受けた時、旦那様が亡くなった時などには絶望を感じたが、その先に光があった。「絶望の先には希望がある」という言葉が印象に残った。後半は泰子様の講演に加え、翔子様が登壇してくださり、ダンスを披露してくれたり、多くの質問に答えたりしてくれた。「揮毫している時はお父様のことを想っている」「一人暮らしを楽しく頑張っている」などたくさんのお話をしてくれた。講演会後には、一人一人に笑顔で話し掛けながらサインをしてくださった。お二人の前向きな生き方や考え方はとても素晴らしく、私たち教師だけでなく、保護者のみなさんにも伝えたいものだった。今後の指導・支援に生きる大変有意義な研修になった。

「摩訶般若」を揮毫している映像

泰子さんによる講演

サインを書いてくださる翔子さん

次回例会　　日付	会場校	内容
9月21日（火）	A-1　Meetで実施	A-1　教材・教具の発表
	A-2　Meetで実施	A-2　ギガタブ・プログラミング研修
	B　Meetで実施	B　テーマ別事例検討会
	C　クラスルームによるオンライン開催	C　担任連絡会、養護教諭連絡会について
	D　Meetで実施	D　個別指導の教材紹介

特別支援教育部会

令和３年度
６月例会報告

市教研　特別支援教育部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1 A-2	6月	都賀小18人、meet83人、 計101人	都賀小学校

○10年研、5年研発表会

1　草野小学校　鎌形先生による５年目研修実践発表　算数「重さ」
・身近にあるものを使用したり、視覚的支援を子供に応じて用意したりした。算数的活動の時間を多く取り入れた。
・実態に合わせて、課題学習などでも復習をした。

2　検見川小学校　市村先生による５年目研修実践発表　外国語「The fruit!フルーツパフェをつくろう！」
・どの子も楽しめるような題材の設定をしたり、学習の中でジェスチャーやゲームを多く取り入れたりした。
・外国語活動は教育課程に位置付けている。３年生以上の児童に評価をしている。

3　草野小学校　五十嵐先生による５年目研修実践発表　算数「たし算（１）さいころゲームをしよう」
・子どもたちにとって数が分かりやすいサイコロと、足し算ボードを使うことで、興味・関心をもたせた。
・サイコロを使ってゲームをしたことがよかった。児童や場面に応じて、具体物・半具体物の使い分けが大切。

4　松ケ丘小学校　村尾先生による１０年目研修実践発表　体育「表現リズム遊び」
・活動中に称賛することや、写真や動画で振り返りをすることが大切である。３密を避ける手立てが必要。
・ギガタブの活用例として、グループで撮り合い、見合うことができるとよい。

5　大森小学校　高橋先生による１０年目研修実践発表　算数「いろいろな形～並べてみよう、作ってみよう～」
・児童の実態に合わせて、色板や色棒、タブレットなど、特性に合わせた教材を使用した。
・同じ流れでの学習を繰り返し行うことで、落ち着いて学習に取り組めるようになってきた。

6　キャリアパスポートについて
・既存のものは支援学級の児童には難しい内容もあるため、上程資料の項目を参考に作成した。
・作成したら、中学校にも引き継げるとよい。

7　諸連絡等
・９月例会について
場所　：千葉市教育会館のホール
内容　：教材・教具の発表を予定。
お願い：Ａ４サイズ１枚程度で教材・教具についてまとめる。
・今後の例会案内について
９月例会以降の連絡については、学習システムのデータを確認する。例会日時前の週の金曜日以降に確認する。

学習システム：全体共有→001_小中特支学校→080_教職員共有→800_市教研→819_特別支援教育部会→Ａ１ブロック・Ａ２ブロック→会員の先生方へ→○月例会　資料

次回例会　　日付	会場校	内容
9/21(火)15:30から	千葉市教育会館ホール	教材・教具の発表

市教研　特別支援教育部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
B	6	42 名	千葉市立真砂中学校

講師　千葉市立真砂中学校　教頭　廣森　貴恭　様
　　授業研究　道徳　授業者　新川　友人先生　千葉市立真砂中学校

○ビデオ視聴による授業研究　　主題　「何が正しいのだろう」
　審判のミスから PK(ペナルティキック)を蹴ることになった。PK を成功させ試合に勝ちたい気持ちや審判のミスのおかげで、相手チームに勝っていいのだろうかと葛藤する気持ちなどを通して、何が正しいのか自分の考えを持たせる授業展開だった。
　※授業者からは、道徳の授業の取り扱いや能力差のある生徒の指導についてグループ協議の提案があった。

○協議会（グループ協議と情報交換）
＜道徳の授業の取り扱いについて＞
・時間割に位置付け、毎週 1 コマ学習している。
・複数学級の学校は、担任が授業を持ち回りで行っている。
・小グループで行う学校もあるが、一斉指導で行っている学校が多い。（他者の考えや意見を聞くことが大切）
・道徳と自立活動を併用している。
＜教材について＞　→教材の準備が苦労している。
・教科書,（デジタル教科書の活用はお勧め）　時事の話題の映像　YouTube　ギガタブの活用
　文科省の読みもの　NHK　for school　ココロ部（道徳教材）　SST　モラル　規則等の教材を使用
　日常生活の中で題材を探す　生活指導の中で実践
＜能力差のある生徒への指導＞　→心情の理解が難しい。
・題材は同じだが小グループに分ける。（学年で能力別に分けている）
・出された意見は気づきとして認めてあげる。
・書くことが苦手な生徒には、口頭で意見を述べ、教師が板書としてまとめていく。

○講師助言
・道徳授業は、ねらいをおさえて、授業の組み立てをする。（映像やロールプレイ等の活用）
・実態把握が重要である。（知的と情緒ではねらいが異なる。）
・指導方法は、生徒の実態に合った授業を行う。（意見を書く　選択肢　絵から選ぶなどもよい）
・指導形態は、一斉指導とグループ指導を併用しそれぞれの生徒に合った指導
・TT での指導は、共通理解した上で授業を行う。
・評価は、ワークシートは絶対ではない。（発表　選べた　つぶやき等も評価していく）
・授業の振り返りは、４択　スケール　レベル　など視覚的に分かりやすくするとよい。

○諸連絡
・参加者アンケートの記入
・９月例会に向けてアンケートの提出

次回例会　　日付	会場校	内容
9/21(火) 15：30～	中央コミュニティーセンター	テーマ別事例検討会

市教研　特別支援教育部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
C	6	３６人	あやめ台小学校

1　県特連分科会発表　事前提案

「ナラティヴ・アプローチの実践」～粘膜下口蓋裂のある児童との対話を通して～

提案者　あやめ台小　竹尾　絵里先生

双方向的な指導の事例として、対象児童との出会いを通して対話形式及びナラティヴ・アプローチを取り入れた指導の実践例をパワーポイントで紹介した。

2　質疑応答・感想

○主題は、粘膜下口蓋裂ではなくナラティヴ・アプローチでいいのかをもう一度考える必要がある。

⇒粘膜下口蓋裂の完治は難しい。吃音の子のように、ナラティヴ・アプローチを取り入れた対話を大事にしたいことから、主題とした。

○なぜ対話の中にナラティヴ・アプローチを取り入れたのか。

⇒まだはっきりしない部分があるので、発表の時までに明確にしたい。

○いつも行っている授業の時配について知りたい。

⇒４０分間の授業展開で、会話の録音で発音を確認してから、口の体操・音読を行っている。

○早口は性格的なものなのか。群読やストップウォッチで時間を計る方法などあるが、実際にどのような支援をしていたのかを知りたい。

⇒会話の動画を観て、本児がどう捉えるかを大切にしている。別の担当からの助言で、早口で電車が好きな児童には話の速度を電車に例え、話すスピードをコントロールできるよう支援しているという話があった。

○発音を治すことだけでなく、対話をしながら本児の思いを一緒に考えていくことは、ツールとして大事。

○提案時間は４０分なので、どこを削るかを考える。オンラインの場合、発表方法によっては、ビデオを使えない可能性もある。使えない場合、児童の静止画を撮り、音声・字幕を流すのはどうか。

○発音の誤りは治せるが、口の構造上、発音を完璧に治せないところを本児は受け入れていかなければいけない。県特連の研修テーマから、構音指導だけでなく対話を重視していくと児童がどのように変化していくかを考えていく。対話を通して、自分の悩みについて違った見方をして、気持ちに折り合いをつけていく。また担当者は、話をするだけでなく、必要に応じて、発音練習を行ったりゆっくり話すように声を掛けたりしていくことが大事である。

○千葉市の代表として、何を強調したいのか、児童の変容などはっきりさせた発表をしてほしい。

3　諸連絡

○ブロック研修について　　きこえ：７月６日　ことば：７月７日

研修内容：個別の教育支援計画・上程について

他にやりたい内容、講演で聞きたい人、授業展開したい人がいれば、高洲三小の鶴岡先生まで連絡。

○10 月例会について

吃音の話（松ヶ丘小学校　渡邉先生）をしていただいた後、吃音の教材を見せ合う機会を設けたいので、各自準備をする。きこえは、吃音の話の後に、きこえの担当で集まる。

○市教研会場の変更について

９月例会　高洲三小の体育館で開催から、ギガタブのオンラインに変更。１月例会は、高洲三小が会場予定。

次回例会　　日付	会場校	内容
９月２１日（火）	ギガタブを活用した オンラインミーティング	○担任連絡会、養護教諭連絡会について （高洲三小・野村先生　あやめ台小・永沼先生）

市教研　特別支援教育部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D	6	23 名	千葉市教育センター

講師　千葉市教育センター　相談班　主任指導主事　杉岡　潤　様

〇「不登校傾向のある児童生徒への対応」について講話

・不登校生徒の手紙紹介

・不登校の現状　平成３年度は学年に 1.2 名が、令和１年には学級に 1.2 名と増加。

・教育相談について　安心して相談できる先生は、受容・共感・知識・経験が大切で、一緒に考えてくれてその子を第一に考えてくれる。

・教育相談班の相談事業について

・個人の適応指導として、電話相談、家庭訪問相談、来所相談。

・少人数の適応指導として、ライトポート。

・集団での適応指導として、教育センターの小・中グループ活動。

・自立への適応指導として、真砂中学校教育相談指導教室、現在生徒２名。

・医療相談。

個別から小集団へと段階を踏まずに、その子にあった段階の場所で活動できることが大切。

〇施設見学

・教育相談室、多目的室、教室などの見学を行った。

・小・中グループ活動担当職員から、活動内容の説明をいただいた。

〇質疑応答・ 困りごと相談

・学校訪問相談とは？　→センターへの相談がある子について学校のケース会議に参加。センター相談がないケースでも相談にのる。出前講座も実施している。

・中学校卒業後の子どもの様子。　→昨年度ライトポート卒業生徒のうち５名は進学していないが、保護者は割と前向き。サポート校進学が多く１からやり直したい。教育センターでエネルギーをためていた子も自分で進路を選択している子が多い。

・教育センターにつながりたくない人への対応？　→不登校の親子は学校の担任とのかかわりを求めている。すぐ外部機関につなげると見捨てられたと感じる人もいるので管理職から外部機関を勧めるなどがよい。

・教育センター側から学校への要望は　→センターにかかわっている子の担任は学校の担任であり、その子も担任とのかかわりを求めているので、顔を見てアプローチをお願いしたい。

・不登校児の保護者から相談された場合　→保護者に安心感を持ってもらえるような対応。保護者は先が見えずに心配だろうが、センターや通級につながっている保護者は子に寄り添うことができている。豊かな不登校生活を送る。その子に合った評価をしてくれる大人とのかかわりが大切。結果ではなく過程を認めてくれると安心する。

６　諸連絡

（1）次回について

９/２１（火）１５：３０～　千葉市立轟町中学校　図書室にて

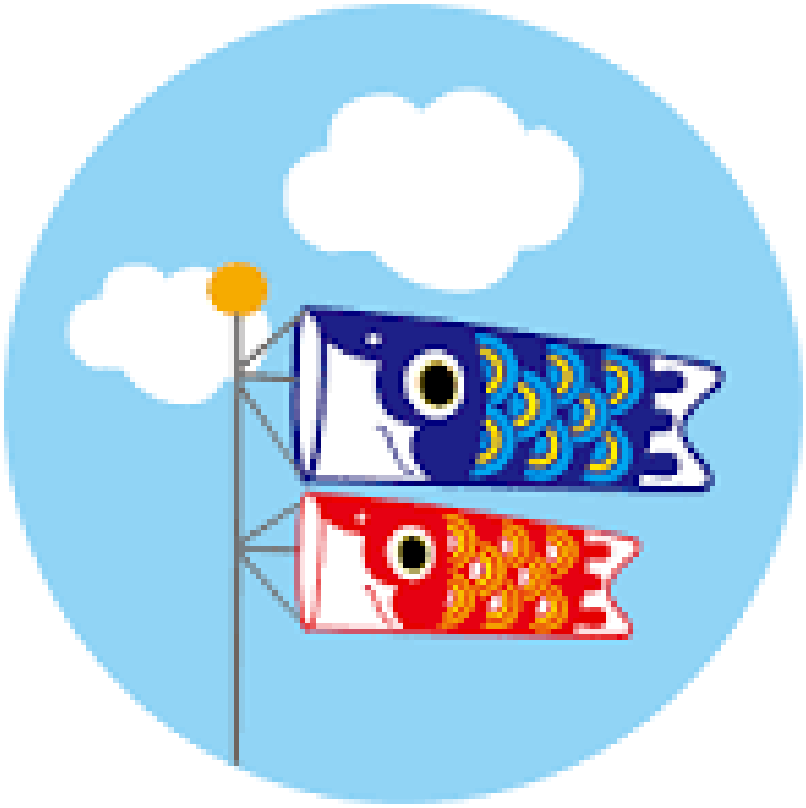
「個別指導の教材紹介」各学校１名の参加。上履き、健康チェック表、飲み物を持参。

会場では手指の消毒をお願いします。学校内に駐車可能。

次回例会　　日付	会場校	内容
9/21(火)15:30 から	千葉市立轟町中学校	個別指導の教材紹介

特別支援教育部会

令和３年度
５月例会報告



市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	5月	２８	高洲第三小学校

1　推進委員自己紹介

2　ブロックテーマについて「児童の実態に合わせた指導・支援の工夫～楽しい授業を目指して～」

3　年間計画（案）

日時	内容	会場	講師
6/15（火）	A2 と合同 10 年研・５年研研究発表会	都賀小	
9/21（火）	教材発表	市教研会館 ホール	
10/19（火）	A2 と合同 評価について･期限付き児童について	千城台 わかば小	田邊指導主事 中村指導主事
11/16（火）	A2 と合同 自立活動について	新宿小	宮野木小 主幹教諭　島尾先生
1/11（火）	県教研報告	未定	

3　近隣校に分かれて自己紹介・情報交換　テーマ「困っていることについて」
- 実態差が多い中での一斉授業について
- ICT 活用、ギガタブの活用について
- 手帳未取得者の進学指導について
- 外国籍の児童・保護者への対応について
- 交流学習について
- 運動会の支援について
- 勝敗にこだわる児童への対応について
- 理科・社会の取り扱いについて

4　質疑応答
- 授業を何かしらの形で見たい

5　その他
- 提案した年間指導計画から変更があります。詳細は現在検討中です。決まり次第お伝えします。

次回例会　　日付	会場校	内容
6/15（火）	都賀小	10 年研・５年研発表会

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-2	５月例会	３４人	千葉市教育会館

【年間活動計画について】

テーマ	月日	内　　容	会　場	助 言 者
楽しい授業を作るための支援・指導の工夫	6 月 15 日(火) 14：00～	A1・A２合同 10 年研・５年研研究発表会	都賀小学校	
	9 月 21 日(火) 15：30～	ICT の活用 プログラミング教育	院内小学校	新宿小 塚田　和明　教諭
	10 月 19 日(火) 14：00～	評価について 期限付き児童について	千城台わかば小	教育支援課　田邊寿晃　指導主事 養護教育センター　中村裕哉　指導主事
	11 月 16 日(火) 14：00～	A1・A２合同 講座　自立活動について	新宿小学校	宮野木小学校 島尾　秀美　主幹教諭
	1 月 11 日（火） 15：30～	教材・教具の紹介	新宿小学校	

【中学校区にわかれての情報交換】（６グループに分かれて情報交換をしました。）

○クラスの分け方と教育課程について

・知的、情緒で分けることで、教育課程も明確に違いを出している。（理科や社会など）

・全員で一緒に学習しているので、ほとんど同じ内容になってしまう。

・話すことが難しい子から学年相応の子まで学級にいて、実態で分けきれない。

○交流について

・自力で交流にいける子はたくさん交流しているが、教師も一緒にいく必要のある子はなかなか難しい。

・給食交流ができるともっと交流がしやすい。

・交流にいっている子が多く、支援級の子が全員揃う時間がほとんどない。通常学級との連携が必要。午後は交流にはいかないようにしている学校もあった。

・ＺＯＯＭで緑区３校のなかよし交流会を実施した。自己紹介、ビンゴゲームなどで楽しくできた。

○期限付き児童について

・３担のうちの１人が手厚く教科指導をしている。

・期限付き児童が昨年度通常学級に籍を戻したが、コロナもあり学習にもついていけずに休みがちになってしまった。再び支援級で一年間過ごして年度末に戻ることができた。

・籍が支援級にあるだけでも子どもにとっては安心感がある。

○体育発表会

・３担なので、練習組と学習組に分かれて分担できている。教室ではプリント学習が多くなってしまう。

・１対１対応の子がいるため、運営が難しい。本人が取り組める範囲でサポートしている。

○ギガタブの活用

・文字入力が難しい子は、マイク入力で検索している。

【連絡】

・市教研の連絡を今後メールで行う。

次回例会　　日付	会場校	内容
６月１５日（火）	都賀小学校	１０年目研修　実践報告会（Ａ１・Ａ２合同）

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
B	5月	２８	千葉市教育会館

１．　推進委員自己紹介

２．　市教研テーマ、　特別支援教育部会テーマ、　Bブロックテーマについて
　　Bブロックテーマ　　「個々の能力に応じた表現力を育てるための支援のあり方」

３．　年間計画（案）

日　　時	活動内容	会　　場	助言者（講師）
５月１８日(火) １５：３０～	・今年度の活動計画の検討、決定 ・授業校の確認　６月例会に向けて	千葉市教育会館	
６月１５日(火) １４：００～	・授業研究　道徳 千葉市立真砂中学校 荒川　友人　先生	千葉市立真砂 中学校	千葉市立真砂 中学校校長 廣森　貴恭　先生
９月２１日(火) １５：３０～	・テーマ別事例検討会	未定	
１０月１９日(火) １４：００～	・授業研究	千葉市立 末広中学校	千葉市立末広中学校 校長　千葉　直敏　先生
１１月１６日(火) １４：００～	・施設見学	千葉県立千葉特別 支援学校	
１月１１日(火) １５：３０～	・１年間のまとめ 教材・教具、実践活動の紹介 ・次年度に向けて	未定	千葉市教育委員会 教育支援課 指導主事　田邊　寿晃

４．質疑応答
・新指導要領の内容を取り入れた研修をぜひお願いしたい。（要望）

５．４～５人のグループになり、自己紹介、情報交換

６．千葉市立末広中学校　校長　千葉　直敏先生より、ご指導
・市教研に参加した方々が、「来てためになった」「学ぶことができた」と思えるような、実のある研修計画をたててほしい。この内容では充実した研修にならない。研修計画の内容の見直しが必要。また会場についても、会員の方々に迷惑にならないよう、推進委員の方でしっかりと決めておくべき。

７．その他
・提案した年間計画は見直して変更します。会場につきましても、早急に決定し、決まり次第お知らせします。ご迷惑をおかけし、大変申しわけありませんでした。

次回例会　　日付	会場校	内容
６月１５日（火）	千葉市立真砂中学校	道　徳

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
C	5月	１５人	千葉市教育会館 302・303

○今年度のブロックテーマの決定

・Cブロックテーマ

「学級で生き生きと生活できる子どもの育成を目指して」

○今年度の研修日程・計画についての協議、各例会の会場の相談

日時	活動内容	会場
６月１５日（火） １４：００～	○県特連実践発表　事前提案 あやめ台小　竹尾　絵里　先生 ○【情報交換会】 感染予防を鑑みながらの日常の指導の進め方について（グループ協議）	千葉市立あやめ台小学校
８月２５日（水） １４：００～	〔特別支援教育部会全体〕 ○特別支援教育講演会	千葉市生涯学習センター
９月２１日（火） １５：３０～	○担任連絡会、養護教諭連絡会について 高洲第三小　野村　絵美　先生 あやめ台小　永沼　陽子　先生 【提案および情報交換会】	千葉市立高洲第三小学校 （予定）
１０月１９日（火） １４：００～	○吃音に関する学習 松ヶ丘小　渡邉　美穂　先生 ○【学習もしくは情報交換会】 初回検査、検査法の学習について	千葉市立松ヶ丘小学校 （予定）
１１月１６日（火） １４：００～	○全難言全国大会の発表内容の報告 院内小　出口　紘子　先生 ○各担当者が持ち寄ったケース別に、小グループでケース検討会	千葉市立院内小学校 （予定）
１月１１日（火）	○【情報交換会】 議題とする内容については今後、アンケート等を通じて決定	千葉市立千城台北小学校

○担当者同士の諸連絡、質疑等

・今年度の各種外部組織の役員担当者についての確認

・県特連についての連絡

・教育課程の届出等各種事務手続きに関する情報交換、質疑

・ＧＩＧＡタブレットを活用したオンラインミーティングの進め方の共通理解

次回例会　　日付	会場校	内容
６月１５日	千葉市立あやめ台小学校	○実践提案（あやめ台小 竹尾先生）　○情報交換会

市教研　特別支援部会　例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D	5月例会	14名	高浜海浜小学校

１　自己紹介

２　年間計画について

・特別支援教育部会研究主題

特別な教育的支援を要する児童・生徒の理解と支援・指導のあり方

・Ｄブロックの主題

子どもの行動の捉え方とよりよい支援のあり方

・年間計画　案

日	時間	内容	講師	場所
6/15(火)	14:00~	千葉市教育センター 施設紹介 不登校傾向のある児童生徒への対応	千葉市教育センター 相談班 主任指導主事 杉岡　潤　様	千葉市 教育センター ４階４－１
9/21(火)	15:30~	個別指導の教材紹介 事前に教材紹介を提出していただき、代表者が紹介する。	なし	千葉市立 轟町中学校
10/19(火)	14:00~	個別支援の必要な児童生徒の成長 区・障害別のグループに分かれて 小・中・高・その後の支援のつながりについて話し合う。	なし	千葉市立 轟町中学校
11/16(火)	14:00~	事例検討 講話	桜木園 園長 柿沼宏明　様	千葉市立 小倉小学校
1/11(火)	15:30~	一年間の振り返り 次年度の見通し	なし	千葉市立 小倉小学校

３　諸連絡

⑴ 次回について

６月 15 日(火)14:00 から

千葉市教育センターの施設紹介と「不登校傾向のある児童生徒への対応」

場所　千葉市教育センター4 階 4-1

教育センターには駐車場がありません。マスクの着用と健康チェック表や飲み物の持参をお願いします。

⑵ 予算について

飲み物などの購入はなくす。文房具や感染症対策関係を購入予定。

次回例会　　日付	会場校	内容
6/15(火)14:00 から	千葉市教育センター	施設紹介と不登校傾向のある児童生徒への対応について